



雲をつかむ

原美術館／原六郎コレクション

第1期（春夏季） 2022年3月19日（土）—9月4日（日）

第2期（秋冬季） 2022年9月10日（土）—2023年1月9日（月・祝）

今春より原美術館ARCでは、「雲をつかむ：原美術館／原六郎コレクション」展を開催いたします。昨年の「虹をかける」に続き、今年も作品制作や鑑賞のあり方の一端を表す言葉を当館の豊かな自然環境に求め、「雲をつかむ」と題し、「原美術館コレクション」（現代美術）と「原六郎コレクション」（東洋古美術）を春夏季と秋冬季の2期に分けて展覧いたします。



【図版1】

「雲をつかむ」という言葉は、「雲をつかむような話」といったように、漠然としてとらえどころのない様や、現実味のないことを意味し、少々ネガティブな印象を与えます。しかし、一般的な意味・解釈から解放すれば、非現実的と思われることにあえて挑戦する姿勢や、混沌とした状況や不透明な事象から、真実らしきものや本質とみなし得るものにとらえようとする意志を表すポジティブな言葉とみなすこともできます。

そのような「雲をつかむ」という言葉を基に現代美術ギャラリーA、B、Cに展示される作品の多くは、作家が自己や美術や社会の本質をつかもうと独自の理論・手法を編み出して制作した作品や、現実の再現ではなく概念を作品化したもの、具体的な像を結ばない抽象絵画や立体、不可解な光景が連なる多義的な写真作品など。一方、特別展示室・観海庵では、雲を描くことで場面を転換したり時の流れを表したりする日本近世絵画や、仏教絵画における雲の表現をご覧ください。また、円山応挙の『淀川兩岸図巻』（下図）を巻き替えながら通年で展示。本図を描くための応挙の淀川体験と意図を下図から読み解きます。

原美術館ARCの広い空には、西の山の向こうから雲が現れてはかたちを変えながら流れていきます。雲水を眺めながら作品の意図をつかもうと次から次へと考えを巡らせる——ここは、そのような場所です。

出品作家

第1期（春夏季）

現代美術：エレナ アルメイダ、イサム ノグチ、井田照一、内倉ひとみ、ジュルズ オリツキー、エンリコ カステラーニ、イヴ クライン、笹口数、佐藤時啓、杉本博司、須田悦弘、ピエール スーラージュ、辰野登恵子、野村仁、ナム ジュン パイク、マルタ パン、藤本由紀夫、ベルント&ヒラ ベッヒャー、アゴステイーノ ボナルーミ、宮脇愛子、三島喜美代、森村泰昌、山口長男、吉田克朗、エドワード ルシェ、ジャン=ピエール レイノー、リチャード ロング

古美術：狩野派「蘭亭図」、円山応挙「淀川両岸図巻」（下図）、「ぶりぶり蒔絵徳利提」、「浪に千鳥蒔絵提重」

第2期（秋冬季） 予定

現代美術：榎倉康二、大野智史、加藤泉、白髪一雄、中村一美、鳴海暢平、堀浩哉、ジョナサン ボロフスキー、増田佳江、ジャック モノリー、トレイシー モファット、森弘治、横尾忠則、吉田克朗、李禹煥など

古美術：円山応挙「淀川両岸図巻」（下図）、「帰去来・放白鵬図」、「仏涅槃図」など

通年展示作品

アニッシュ カプーア「虚空」、草間彌生「ミラールーム（かぼちゃ）」、宮島達男「時の連鎖」、森村泰昌「輪舞（双子）」、奈良美智「My Drawing Room」、東芋「真夜中の海」など

広報用図版

第1期（春夏季）：2022年3月19日（土）—9月4日（日） 出品作品



〔図版2〕



〔図版3〕



〔図版4〕



〔図版5〕

第2期（秋冬季）：2022年9月10日（土）—2023年1月9日（月・祝） 出品作品



〔図版6〕



〔図版7〕



〔図版8〕



〔図版9〕

古美術出品作品 第1期 (春夏季)



[図版 10]



[図版 11]



[図版 12]

第2期 (秋冬季)

通年展示作品



[図版 13]



[図版 14]



[図版 15]

[図版 1] 原美術館 ARC 外観 撮影：木暮伸也

[図版 2] 辰野登恵子「無題 97-4」1997年 カンヴァスに油彩 218 x 291cm

[図版 3] ジャン＝ピエール レイノー「試験管 II」1978年 木材にペイント、タイル、ガラス管 53.0 x 37.3 x 16.7 cm
©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2022 G2760

[図版 4] 森村泰昌「表情研究III」1994年 白黒写真 25 x 20 cm ©Yasumasa Morimura

[図版 5] 山口長男「かたち」1952年 木板に油彩 186 x 186 cm

[図版 6] 榎倉康二「干渉 (STORY - No.16)」1991年 綿布にアクリル塗料、アクリル絵具、木 248 x 333.3 cm

[図版 7] 横尾忠則「誰か故郷を想わざる」2001年 カンヴァスにアクリル絵具 227.5 x 182.0 cm ©Tadanori Yokoo

[図版 8] 加藤泉「無題」2008年 木、油絵具、アクリル絵具、石 168 x 42 x 42cm ©Izumi Kato

[図版 9] 白髪一雄「無題」1964年 カンヴァスに油彩 92 x 73 cm

[図版 10] 「仏涅槃図」桃山時代 絹本着色 一幅 163.0 x 108.9 cm

[図版 11] 狩野派「蘭亭図」(部分) 三井寺旧日光院客殿障壁画 桃山～江戸時代 紙本墨画 四幅 各 169 x 128.6 cm

[図版 12] 「葡萄栗鼠蒔絵提重」江戸～明治時代 黒塗漆箱 一基 27.7 x 18.5 x 30.5 cm

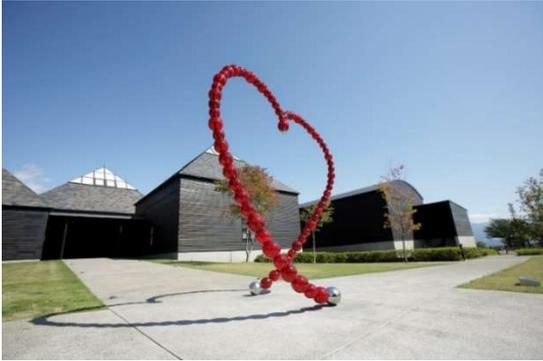
[図版 13] 奈良美智「My Drawing Room」2004/2021年 312 x 200.5 x 448 cm ©Yoshitomo Nara 撮影：木暮伸也

[図版 14] 鈴木康広「日本列島のベンチ」2014/2021年 ミクストメディア ©Yasuhiro Suzuki 撮影：木暮伸也

[図版 15] 草間彌生「ミラールーム (かぼちゃ)」1991/1992年 ミクストメディア 本体 200 x 200 x 200 cm ©Yayoi Kusama
撮影：木暮伸也

※ [図版 15] 草間彌生「ミラールーム (かぼちゃ)」の図版掲載については、当館への掲載依頼後、別途各媒体からの著作権使用許可申請が必要です。掲載をご希望の場合は、まずは当館までご連絡ください。

原美術館 ARC について



ジャン=ミシェル オトニエル 「Kokoro」 2009年
撮影：白久雄一



撮影：齋藤さだむ



撮影：木暮伸也



原美術館 ARC は、現代美術の専門館である原美術館（東京・品川。1979年開館、2021年1月閉館）と別館ハラ ミュージアム アーク（群馬・渋川。1988年開館）の活動を集約し、2021年4月に始動した美術館です。青い空と深い緑に抱かれた豊かな環境での美術体験を特長としています。

当館の収蔵作品「**原美術館コレクション**」は、運営母体である公益財団法人アルカンシエール美術財団理事長の原俊夫が財団設立時から収集した、1950年代以降の世界の現代美術コレクションです。抽象表現主義やポップアートなど、20世紀美術を彩った巨匠の絵画や彫刻から現在のアートシーンで活躍する作家の写真や映像作品まで、多種多様な表現を網羅しています。

また、明治の実業家・原六郎（1842-1933）が収集した近世日本絵画、工芸、中国美術などを「**原六郎コレクション**」として所蔵しています。なかでも中国陶磁の真髄を伝える国宝「青磁下蕪花瓶」や浮世絵美人図の先駆けとなる重要文化財「縄暖簾図屏風」、円山応挙の大作画巻「淀川兩岸図巻」、永徳ほか狩野一門による「三井寺旧日光院客殿障壁画」が代表作です。

当館の**建築**は、「建築界のノーベル賞」と称されるプリツカー賞を受賞した磯崎新が手がけました。榛名山の峰々と呼応するピラミッド型の屋根が印象的なギャラリーAと、前庭に向かって両翼を広げるギャラリーB・Cは、現代美術作品の映える端正な空間です。一方、滋賀県・三井寺（園城寺）の旧日光院客殿の書院造に想を得た「観海庵」は、内部のいたるところに名工の技が光る静謐な和風空間です。

広々とした庭では、アンディ ウォーホルやオラファー エリアソンなど、国内外のアーティストによる屋外作品を鑑賞しながらの散策もお楽しみいただけます。

開架式収蔵庫に保管している一部の原美術館コレクションは、学芸員や評論家、教育・研究機関に所属する方など主に美術の専門家を対象に、作品の鑑賞・調査が可能となっています。また、一般の方向けには、随時、庫内のガイドツアーも行っています。どちらも予約制です。

*新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在ガイドツアーは休止しております。再開の際には当館ウェブサイトでご案内いたします。



大きな窓と高い天井が心地よい**カフェ ダール**では、群馬県産の新鮮な食材を活かした特製サンドウィッチやパスタなどのお食事や、伊香保グリーン牧場オリジナルアイスクリームなどをご用意しています。週末には作品をイメージして作られた「イメージケーキ」もお召し上がりいただけます。



ザ・ミュージアムショップでは、展覧会カタログや関連書籍から、アーティストグッズ、デザイン小物やアクセサリなど、現代美術を暮らしに取り入れ、お楽しみいただける商品を取り揃えています。また、日本の伝統技術を感じさせるモダンな商品や、群馬県ゆかりの作家をご紹介するなど、お土産やギフト、旅の話題を探すにもぴったりのショップです。

原美術館 ARC 周辺には、動物とのふれあいを楽しめる「伊香保グリーン牧場」、名門ゴルフコース「伊香保カントリークラブ」、古くから湯治場として知られる「伊香保温泉」、「水澤観音」の名で親しまれる「水澤寺」などのレジャーや観光スポットも。豊かな緑と広い空、アートと共にゆったりとした休日のひとときをお過ごしください。

開催要項

展覧会名 雲をつかむ：原美術館／原六郎コレクション

会期 第1期（春夏季）2022年3月19日（土）－9月4日（日）

第2期（秋冬季）2022年9月10日（土）－2023年1月9日（月・祝）

*特別展示室・観海庵は、第1期、第2期ともに会期中各1回の展示替えがあります。

*新型コロナウイルス等の影響により、会期変更の可能性があります。最新情報は公式ウェブサイトでご確認ください。

主催・会場 原美術館 ARC

開館時間 9:30 am－4:30 pm（入館は4:00 pm まで）

休館日 木曜日（祝日と8月、12月29日を除く）、展示替え期間、1月1日、冬季

入館料 一般1,100円、大高生700円、小中高生500円

・原美術館 ARC メンバーシップ会員は無料、学期中の土曜日は群馬県内の小中学生の入館無料

・ぐーちょきパスポートをご提示の方、70歳以上の方、障がいのある方は特別料金規定あり

・団体についてはお問合せください

・伊香保グリーン牧場とのお得なセット券 一般1,800円、大高生1,500円、中学生1,400円、小学生800円

（5月3日、4日、5日はセット券の販売を中止します）

* カフェ、ミュージアムショップのみご利用の場合も原美術館 ARC への入館料が必要です。

住所 〒377-0027 群馬県渋川市金井 2855-1

Tel: 0279-24-6585 E-mail: arc@haramuseum.or.jp ウェブサイト: <https://www.haramuseum.or.jp>

交通案内

・JR 上越／吾妻線「渋川駅」（上越／北陸新幹線利用の場合は「高崎駅」で上越／吾妻線に乗り換え）より、関越交通バス「伊香保温泉」または「伊香保榛名口」行き（3番のりば）にて約15分、「グリーン牧場前」下車、徒歩7分。または「渋川駅」よりタクシーで約10分。

・お車の場合、関越自動車道「渋川・伊香保I.C.」より8km、約15分。（無料駐車場50台、大型バス駐車場2台）

【JR 乗換案内例】 *2022年2月現在。ご利用の際は時刻表をお確かめください。

上越・北陸新幹線（平日・土日とも）

- ・東京駅 7:52 発 <はくたか 553号> → 高崎駅 8:42 着 / 8:53 発 [吾妻線 大前行] → 渋川駅 9:19 着 / 9:25 発 関越交通バス [伊香保温泉行および伊香保榛名口行] → グリーン牧場前 9:40 着
- ・東京駅 10:40 発 <とき 317号> → 高崎駅 11:32 着 / 11:44 発 [吾妻線 長野原草津口行] → 渋川駅 12:08 着 / 12:14 発 関越交通バス [伊香保温泉行および伊香保榛名口行] → グリーン牧場前 12:29 着

特急「草津」（草津31号は土休日のみ運行）

- ・上野駅 9:00 発 <草津31号> → 渋川駅 10:38 着 / 10:55 発 関越交通バス [伊香保温泉行および伊香保榛名口行] → グリーン牧場前 11:10 着
- ・上野駅 10:00 発 <草津1号> → 渋川駅 11:36 着 / 11:42 発 関越交通バス [伊香保温泉行および伊香保榛名口行] → グリーン牧場前 11:53 着
- ・上野駅 12:10 発 <草津3号> → 渋川駅 13:50 着 / 13:55 発 関越交通バス [伊香保温泉行および伊香保榛名口行] → グリーン牧場前 14:06 着

【高速バス／JRバス上州ゆめぐり号】

新宿駅⇔渋川駅・伊香保・草津温泉 *詳細はジェイアールバス関東のサイト <http://www.jrbuskanto.co.jp/> でご確認ください。



展覧会「雲をつかむ：原美術館／原六郎コレクション」担当学芸員：坪内
 取材・図版提供など広報に関するお問い合わせ：原美術館 ARC 広報 山川、野田
 E-mail: press@haramuseum.or.jp Tel: 0279-24-6585 Fax: 0279-24-0449
 Twitter: @haramuseum_arc Instagram: haramuseumarc